

なりふりかまわず

雑草研究第6号の論説に、京大の植木助教授が「雑草防除学体系化の一考察」なる論文を寄せ、農学における一要素としての雑草防除の採り上げかたが不十分と訴え、雑草防除学に関する構想を系統づけて発表している。この意見には全面的に賛成である。作物栽培において作物を害するものとして、病害虫と並んで雑草があるが、雑草害への認識は従来充分ではなかった。雑草害への認識はあってもそれは雑草は手にとるとの勤労の哲学に押し消されて、薬剤による除草など考えてもみななかったというのが事実であろう。

しかし、病害虫分野の発展も当初からあったのではない。イモチ病には石灰ボルドーを、ニカメイ虫に硫酸ニコチンを適用する部分もあったが、主流は葉鞘変色茎摘採といったものだったと思う。それが、セレサン石灰やBHC、パラチオンなど有効的確な薬剤の出現によって、一躍病害虫防除が農業、したがって農学の花形要素となり、研究陣営も拡充されたのである。除草も2,4-Dの紹介に始まる有効な薬剤の開発を契機に飛躍した。農業試験場に除草を専門とする研究室が10近く設けられ、除草剤利用試験を行なわぬ試験場は一つもない。大学にも研究施設が設けられているが、やがて講座の開設となり、作物・育種・園芸・病理・害虫とならんで雑草学が必修となろう。

雑草防除研究は、地域や土壌、作物生育時期などを対象に研究者の緊密な連絡によって素晴らしい成果をあげてきたが、その原動力は専門分野の異なる官民の研究者や関係者が一堂に会し、なりふり構わず、討論し発表し、除草技術

目 次

「アジア・太平洋地域雑草防除

技術交換会議」

[The 2nd Asian-Pacific Weed
Control Interchange]

に出席して(1)

(財)日本植物調節剤研究協会研究所

研究室長 小 沢 啓 男…………… 2

四国地方における除草剤の普及状況

—香川県編—

香川県農業改良課

稲作専門技術員 近 井 謙 二 … 6

農林省蚕糸試験場桑生態研究室の紹介

研究室長 蒔 祐 介 …… 8

受賞者の横顔

西 貞 夫 氏……………10

野 田 健 児 氏……………10

広 瀬 和 栄 氏……………10

西 尾 隆 雄 氏……………10

昭和43年度冬作関係除草剤

試験成績概要

(財)日本植物調節剤研究協会……………11

新除草・調節剤

2,4 P A ・ A T A 除草剤 ……………16

HW-40187 乳剤……………16

の確立に誤りなきをひたすら念じた賜ものと思う。今後は、さらに植物生理の上に立つ作用機作を中心に開発や技術普及の拡大が計られると思うが、この際大切なのは従来ととりつづけた「なりふり構わぬ」真しな態度を忘れないことである。

(戸 菊 義 次)